東京女子医大事件 患者不在に批判

厚労省分科会「病院の体質」と指摘

高度な医療を提供するはずの特定機能病院で起きた東京女子医大病院（東京・新宿）の医療ミスと隠ぺい事件。患者不在の体質に対し、昨年二月から検証してきた厚生労働省医療分科会では批判が相次いだ。

昨年二月二十八日の分科会の初会合では「学内第三者がより詳細な調査を行った」と病院側は説明。委員から「学内第三者とはどういう意味か」と質問が飛んだが、病院側の回答は「（事故を起こした）心臓血圧研究所以外の人物」とあっさり回答。質問した委員は「それを第三者というのか。こうした調査を学内でやっても国民は信頼しない」と切り捨てた。

だが大学側は公表しないまま。結局、昨年十二月末に報道で明らかになった。

分科会では「大変なことをしたと意識しないことが問題。意識して初めて問題は解決するのに……」とあきれかえった。

「委員宅を一軒一軒回るのはどうでしょうか」。分科会の議論が大詰めとなった五月、「承認取り消しは避けたい」という同病院幹部が厚労省の大物OBに相談した。OBは「そんな考えだから、ダメなんだ」と一喝した。

話を聞いた委員は五月二十七日の分科会で、「これはもう病院の体質だ」と指摘した。

自身含め処分検討

院長ら会見「重い責任問われた」

東京女子医大病院の心臓手術ミス事件で、厚生労働省の社会保障審議会医療分科会による特定機能病院承認取り消し決定を受け同病院は十二日、林直諒院長らが記者会見、自主返上が認められなかったことに「（分科会の）判断を真摯（しんし）に受け止める。返上では済まない重い責任を問われた」と述べた。

林院長は自らを含む病院関係者の処分について「懲戒委員会で検討を始めている」と説明。逮捕された医師らの上司だった事件当時の循環器小児外科主任教授や病院長に関しては「既に退任しており事情を聴いていなかった」として、今後、外部評価委員会で当時の状況などの説明を求めることを明らかにした。

逮捕直後の会見で林院長は心臓移植の実施の自粛を表明していたが、会見に同席した同病院の日本心臓血圧研究所の笠貫宏所長は言明を避けた。

特定機能病院の承認取り消しを受け、会見する東京女子医大の林院長㊨ら（12日、東京都新宿区）

女子医大小児心臓手術事故
特定機能病院取り消し院長会見
2002年7月13日　日経新聞